

もっと学びたい人へ (3)

❖ ❖

第3課ではまず、第2課に引き続き、動詞シルシ形スル・シタ式について見ました。

▽ [動詞シルシ形] スル・シタ式

| | | | | | | |
|------------|---|------------|-----------------|---|--------|-------|
| 主語の シルシ | - | 時間の シルシ | (- 目的語の シルシ) | + | [動詞本体] | (- E) |
|------------|---|------------|-----------------|---|--------|-------|

その中で、目的語のシルシについて見ました。

▽ 人の目的語のシルシ

| | | | |
|---------|----------|----------|---------------|
| [1人称単数] | - ni - | (mimi) | 〈私を—/に—〉 |
| [1人称複数] | - tu - | (sisi) | 〈私たちを—/に—〉 |
| [2人称単数] | - ku - | (wewe) | 〈あなたを—/に—〉 |
| [2人称複数] | - wa - | (nyinyi) | 〈あなたたちを—/に—〉 |
| [3人称単数] | - m(w) - | (yeye) | 〈彼(女)を—/に—〉 |
| | | (Saida) | 〈サイダを—/に—〉 |
| [3人称複数] | - wa - | (wao) | 〈彼(女)たちを—/に—〉 |
| | | (wazee) | 〈親たちを—/に—〉 |

2人称複数の目的語のシルシは、'-wa-'であると説明しましたね。しかし実際は、'-wa-'だけではありません。2人称複数の目的語のシルシの、他のパターンについて見てきましょう。

❖ .. ❖

それから、ここでは、動詞シルシ形シテ・シロ式の2人称複数形についても一緒に見ていきましょう。そしてさらに、動詞シルシ形時ナシ動詞のガアル表現の過去と未来の形についても、ここで一緒に見ておきましょう。

❖ ❖

◆ 2人称複数の目的語のシルシ

2人称複数の目的語のシルシには、第3課で見た'-wa-'の形も含めて、これら3つの形があります。

▽ 2人称複数の目的語のシルシ

| | | | | | | | |
|---|------------|---|------------|------|---|---------------------|------|
| ① | 主語の シルシ | - | 時間の シルシ | - wa | + | [動詞本体] | |
| ② | 主語の シルシ | - | 時間の シルシ | - wa | + | [動詞本体] (-a ⇒ -e) | - ni |
| ③ | 主語の シルシ | - | 時間の シルシ | - ku | + | [動詞本体] (-a ⇒ -e) | - ni |

②と③の形においては、動詞本体の尻尾が‘-a’の場合は、‘-a’を‘-e’に変えてから、‘-ni’を付ける必要があります。例を見ておきましょう。

((例 1)) 〈彼はあなたたちを見た。〉

- ① Ali**w**atazama.
- ② Ali**w**atazame**ni**.
- ③ Ali**k**utazame**ni**.

((例 2)) 〈彼はあなたたちを信じていた。〉

- ① Ali**w**aamini.
- ② Ali**w**aamin**ini**.
- ③ Ali**k**uamin**ini**.

①の‘-wa-’だけの場合では、3 人称複数とシルシが全く同じであるため、3 人称複数と混同してしまう恐れがあります。②と③では、語末に 2 人称複数を表わす‘-ni’が付いていますから、2 人称複数であることが明確に表わされますね。

それから、例 2 の②と③では、動詞本体の尻尾は‘-i’であって‘-a’ではありませんから、尻尾を変える必要がありませんね。

◆ [動詞シルシ形] シテ・シロ式の 2 人称複数形

第3課で見た動詞シルシ形シテ・シロ式は、相手が1人の場合の言い方、つまり2人称単数の言い方でしたね。

▽ 2 人称単数形のシテ・シロ式

+ [動詞本体]

相手が2人以上の場合の形、つまり2人称複数の形は、このように、動詞本体の後ろに、‘-(e)ni’を付けて表わします。

▽ 2 人称複数形のシテ・シロ式

+ [動詞本体] - ni

(-a ⇒ -e)

‘-(e)ni’は、2 人称複数を表わすシルシです。先ほど見た目的語のシルシでも出てきましたね。動詞本体の尻尾が‘-a’の場合は、やはり‘-a’を‘-e’に変えてから、‘-ni’を付ける必要があります。

((例 1)) 〈見て／見ろ。〉

(1 人の相手に対し、) Angalia.
(2 人以上の相手に対し、) Angali**eni**.

((例 2)) 〈聞いて／聞け。〉

(1 人の相手に対し、) Sikiliza.
(2 人以上の相手に対し、) Sikiliz**eni**.

シテ・シロ式には、不規則形をもつ動詞本体が 3 種類ありましたね。‘+ leta’〈持ってくる〉, ‘+ ja’〈来る〉, ‘+ enda’〈行く〉です。これらの 2 人称複数形は、2 人称単数の不規則形に ‘-(e)ni’ を付けます。元の動詞本体の形に ‘-(e)ni’ を付けるわけではありません。(ただし, ‘+ leta’ が ‘leteni’ となるのは、結果的に規則的な変化ですね。)

▽ 不規則なシテ・シロ式の 2 人称複数形

| | | | |
|---------|---|-----------------|----------------|
| ((単数形)) | → | ((複数形)) | |
| Lete. | → | Leteni. | 〈持ってきて／持ってこい。〉 |
| Njoo. | → | Njooni. | 〈来て／来い。〉 |
| Nenda. | → | Nendeni. | 〈行って／行け。〉 |

ここまでに見たシテ・シロ式は、肯定形のものでしたね。否定形は、後の課で学ぶシ・シテ・シヨウ式の否定形で表わします。(→ 第 6 課)

◆ [動詞シルシ形] (時ナシ動詞) ガアル表現の過去形と未来形

第 3 課で見た動詞シルシ形の時ナシ動詞ガアル表現で表わされたのは、「～がある」状況のみで、普通は現状が表わされるのでしたね。

▽ [動詞シルシ形] (時ナシ動詞) ガアル表現

| | |
|------------|------|
| 主語の シルシ | + na |
|------------|------|

「～があった」や、「～があるだろう」といった、過去と未来の「～がある」状況を表わすには、「～である」、「～になる」という意味の動詞本体 ‘+ wa’ を用います。つまり、「～がある」状態「であった／になった」、「～がある」状態「であるだろう／になるだろう」というように、動詞シルシ形スル・シタ式で表わすのです。否定形も同様です。

((例))

Nina njaa.

〈私はお腹が空いている。〉

(私は空腹がある。)

Sina njaa.

〈私はお腹が空いていない。〉

(私は空腹がない。)

((例: 過去の「～がある」状況))

Nilikuwa nina njaa.

〈私はお腹が空いていた。〉

(私は空腹があった。)

Nilikuwa sina njaa.

〈私はお腹が空いていなかった。〉

(私は空腹がなかった。)

((例: 未来の「～がある」状況))

Nitakuwa nina njaa.

〈私はお腹が空くだろう。〉

(私は空腹があるだろう。)

Nitakuwa sina njaa.

〈私はお腹が空かないだろう。〉

(私は空腹がないだろう。)

動詞本体‘+ wa’の前の‘-ku+’は、動詞シルシ形の音の調子を整えるために挿入されています。また、通常は下に示すように、動詞シルシ形の後ろにくるガアル表現は、主語のシルシのない‘na’だけでも表わされます。

Nilikuwa na njaa.

(**Nilikuwa nina** njaa.)

Nitakuwa na njaa.

(**Nitakuwa nina** njaa.)

... ❖

